

和ん話んタイムズ

No. 17

2012.7.25

NPO 法人

ここ掘れ和ん話ん探検隊

イザベラ・バードが歩いたと同じ日に、同じコースを歩く

イザベラ・バードin十三峠 成功裏に開催できました。

イギリスの女性探検家・イザベラ・バードは134年前（1878 明治 11）の7月、新潟県から十三峠を越えて、川西町から上山方面に旅をした。

新潟県黒川に泊まったバードは、7月11日、鷹巣峠・榎峠を越えて沼に宿をとった。翌日の12日は大里峠から黒沢峠を越えて市野々に泊まった。翌日の13日は桜峠を通り、小松に泊まっている。

このバードが通ったと同じコースを同じ日に歩いてみよう、ということで、今回の企画となった。沼も市野々も現在では宿泊が不可能であり、やむを得ず、高瀬温泉と梅花皮荘宿泊とした。

実行委員会（委員長一斎藤弥輔、副委員長一鏡正明、事務局長一保科勝見）を立ち上げ、各方面からの協賛を得ることができた。（越後米沢街道・十三峠交流会、和ん話ん、小国町観光協会、関川村観光協会、飯豊町観光協会、白い森㈱、FELIX、遠藤畜産、CONNECT）

初めてのイベントということもあり、暗中模索のスタートとなった。

参加者を募るPRの方法、宿の手配、各方面への協力の依頼、バードの服装、さては牛の手配……打合せの繰り返し、実行委員の東奔西走が続いた。

ホームページにイベント案内をアップしてまもなく、横浜市から参加の申し込みが届き、実行委員から笑みがこぼれる。しばらく申し込みは途切れたが、宮城県・福島県からも申し込みが入る。いつか募集人員の20名を超えていた。

いよいよ7月11日の午後、新潟県下川口から鷹巣峠に歩を刻んで、イベントはスタートした。

* 関川村の平田大六村長からは、初日の夜の交流会も含めて、二日目まで同行いただき、多くの説明を受けた。

78才になるそうですが、その健脚ぶりには一同唖然とするほど。

* 2日目の昼食は、健康の森。

小国町観光協会や白い森㈱の方々が「冷や汁」を作って待っていてくれた。雨の中を5時間以上歩き、疲れきった身体に、この珍品は何よりのご馳走であった。

* 種沢では、茶と菓子をご馳走になった。



初日、新潟県下川口から最初の峠、鷹巣峠を登り始める

暑さ何の十三峠挑戦

英旅行家の足跡たどる

関川



英国の女性旅行家イザベラ・バードが明治時代に通った関川村・山形県

関川村を出発した。暑い暑さの中、バードが通ったと同じ時期に同じ行程をたどり、当時をしのんだ。

山形県小国町のNPO法人などをつくる実行委員会の主催。関川村や山形県、宮城県などから24人が参加した。

十三峠は、関川村から山形県の小国町、飯豊町を通過して川西町に至る約60kmにある13の峠。バードは十三峠を1878年7月11、13日、ろくに通っている。その後、バードは北海道まで旅を続け、「日本奥地紀行」を著し

十三峠の最初の鷹巣峠を歩く参加者11日、関川村

参加者は11日午後、関川村の鷹巣峠入り口を出発。鷹巣峠と横峠の計約5kmを踏破した。12日は大里峠を越えて山形県に入り、8番目の鷹巣峠まで約28kmを歩いた。最終日の13日は朝霧に包まれている峠や未整備の峠をバスで通過し、険しい宇津峠の約5kmを歩く。

夫屬で参加した山形県南陽市の彌敷子さん(52)は「蒸し暑い時期だけど、イザベラ・バードと同じ日に歩くのは感慨深い」と話していた。



イザベラ・バードに扮した女性と、馬代わりに使われた牛が登場した。飯豊町手ノ子

よみがえるバードの山形路 十三峠歩くイベント

英国人旅行作家イザベラ・バードが旅した越後米沢街道・十三峠を同じ日程で歩くイベントが11日から実施され、最終日の13日、飯豊町手ノ子の宇津峠にバードに扮（ふん）した女性や、牛などが登場。約130年前の旅の姿が再現された。

バードの旅に思いをはせようと、小国町のNPO法人「ここ掘れ和（わ）ん話（わ）ん探検隊」などが企画。県内外から24人が参加した。参加者は11日に新潟県関川村の鷹巣峠を出発。2泊3日の旅程で小国町内の峠を歩き、13日昼に宇津峠の落合口にゴールした。

バードは十三峠の一部区間で、乗用馬の代わりに牛を使った。ゴールで待っていたのはバードに扮した小国町の女性職員と、牛1頭、馬子（まこ）役。参加者は当時をしのびせる。ゲストの登場に歓声を上げて記念撮影。長旅を終えた達成感に浸った。

参加した宮城県大和町、会社員山屋敏英さん(62)は「十三峠の景色、食、温泉を楽しんだ。バードと牛の再現に感激した」と話していた。

* 黒沢峠では、今が旬のおいしい漬物・雨に濡れた身体に熱い茶がおいしかった。

* 3日目のメインイベントは飯豊町落合。イザベラ・バードと牛が現れたからびっくり。牛が興奮？し

て、さすがバードも牛に乗ることはできなかったが、バードと牛を追ってシャッター音が続いた。

* 今回は日程の都合もあり、一部の峠は車窓からの眺めとなったし、諏訪峠は割愛となった。今年は第1回目でもあり、次回に向けて、さらに充実したイベントになるよう検討したい。

* 初日は新潟日報が取材、最終日のバードと牛のシーンは山形新聞が取材にきました。

右上は新潟日報7月13日付け。右下は、7月14日付けの山形新聞1面に載った記事です。

* このイベントの全行程の内容と写真は『越後米沢街道・十三峠交流会』のホームページに詳しく。